

令和5年度第2回有明アリーナ管理運営事業モニタリング委員会 議事要旨

1 開催日時 令和5年7月24日（月曜日）17時から19時30分まで

2 開催場所 東京都庁第一本庁舎19階 19E会議室

3 出席委員 笹井裕子委員、澤井和彦委員、鈴木智子委員、千葉恵介委員、
山口直也委員（5名全員出席）

※第1回の互選により、委員長は山口委員

4 会議内容の概要

※有明アリーナ管理運営事業モニタリング委員会設置要綱第7の規定に基づき、一部を非公開

(1) 開会挨拶・趣旨説明

事務局より、第1回モニタリング委員会での意見等を踏まえて、運営権者と直接質疑応答を行っていただき、令和4年度有明アリーナ管理運営事業報告書について、ご意見を頂きたい旨を説明

(2) 議事

ア 報告事項

事務局より、第1回モニタリング委員会、運営権者の財務状況、事前質問に対する回答について説明

イ 審議事項

(ア) 運営権者との質疑応答【運営権者参加】

(澤井委員)

資料5 No.2について、1万人規模のスポーツ大会等の実施を意識し続けるという回答だが、具体的な取組やアイデアについて教えてほしい。

(運営権者)

国際大会はかなり先の予定も出ており、NFやIFとの協議も必要になる中で、今年にはバスケットボールの世界カップの壮行試合を有明アリーナで開催する予定。今後もNFやIFとの情報交換を通じ大きな大会を呼び込んでいく。

(澤井委員)

資料5 N o 6について、新型コロナウイルス感染症の影響はまだ残っているか。

(運営権者)

新型コロナウイルス感染症の影響については、感染症拡大前と比較して、令和4年度の国際大会は減少傾向にあったが、令和4年度末からはマスク着用なしでの声出しが可能になるなど、影響は縮小しつつある。

(笹井委員)

資料5 N o 1について、広報活動において、有明アリーナのどのような価値を発信すべきと考えているか教えてほしい。

(運営権者)

新型コロナウイルス感染症を経て、スポーツもエンタメもオンラインではできない価値、人が集まり熱狂するという価値を施設として提供していきたい。

(山口委員長)

資料5 N o 3～5の研修について、全体像について聞きたい。

(運営権者)

研修の実績について、講習の内容と受講者数はお見せすることが可能。リアルタイムは大体70%くらいで、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、基本的にはオンラインで実施。簡単なワークショップなどを行った。

(千葉委員)

資料5 N o 8について、メインアリーナスポーツ利用時と連携したジムの利用推進の具体的な取組を教えてほしい。

(運営権者)

一般の利用と棲み分けを行い、実際に試合に出場する選手団などが貸切でジムを使用できるよう検討。

(鈴木委員)

資料5 N o 18について、有明アリーナは現時点で、「アジアを代表する最先端スマートアリーナ」と言えるのか、そうでないならば、現在どの位置にいるか。

(運営権者)

通信環境という点では、高密度Wi-Fiの整備により、人数当たりのアクセスポイントは、国内最大かつ最先端を走っている認識。有明アリーナは多目的施設であることから、様々な主催者の意見を踏まえながら、ニーズに合わせた追加投資を引き続き検討。

(山口委員長)

資料5 No.7について、都民開放DAYは継続して行う予定か。継続する場合、日程の設定方法や周知方法について教えてほしい。

(運営権者)

毎年継続し、年3回実施する予定。日程は、1回目がレガシーを意識し、7月ないし8月、2回目がスポーツの日付近、3回目が年末年始の予定。

周知方法は、HPで告知。地域(江東区)の方が中心となると考えているが、周知方法については引き続き検討。

(山口委員長)

イベントの内容は、プロスポーツ団体と連携するような取組はあるのか。

(運営権者)

今年の7月26日には、都民開放DAYとして有明スポーツフェスを初めて開催し、地元のプロチームなどを集めて、様々なコンテンツを自由に楽しんでいただく予定。

(山口委員長)

資料5 No.12について、昨年は8月末の開業であり、令和5年度以降は夏場の熱中症などが懸念されるが、館の中だけでなく、館の外の熱中症対策は検討しているか教えてほしい。

(運営権者)

待機列の並べ方の工夫や屋外自動販売機の増設などを実施し、できる限り対応したい。

(イ) 令和4年度有明アリーナ管理運営事業報告書(案)について

事務局より、令和4年度有明アリーナ管理運営事業報告書の評価について、令和4年度は、メインアリーナにおけるスポーツ利用日数を除き、要求水準の未達状態や財務状

況の悪化は認められず、各種サービスの提供等は順調に行われている点、メインアリーナのスポーツ利用日数は、要求水準書では、年間60日を供用開始日から日割した37日が求められるが、20日であったため、要求水準を確実に達成するよう求める点、地域住民に対して引き続き丁寧な対応を求める点を重要ポイントとして記載していると説明

委員より、報告書内の都の評価について、以下の発言あり

(山口委員長)

アンケートに加え、来館者から直接寄せられる意見についても、丁寧な対応を続ける必要があるという記載を求める。

(鈴木委員)

都府施設、レガシー施設であることを意識した運営をすべきではないかといった点を記載した方が良いのではないかと。

(山口委員長)

単なる民間施設ではなく、都の政策目的の実現を踏まえた施設運営が求められる。

(笹井委員)

単に稼働していればいいのではなく、そこに施設が存在する意義や都府施設、オリパラレガシーであるという性格を踏まえて運営して欲しい。

(澤井委員)

ここでオリンピック・パラリンピックを実施したことを思い出してもらう運営の姿勢が求められる。

(千葉委員)

オリンピック・パラリンピックを実施したことを忘れ去られないような運営が望まれる。

(3) 連絡事項

事務局より、第2回モニタリング委員会の意見を踏まえて報告書を修正し、再度確認いただき、報告書完成後は、都のHPで公開することを説明

以上